

3月17日から
通行開始

町道新中堀新川崎線が開通しました

3月17日(火)、町道新中堀新川崎線の開通式を挙行了しました。

この路線は、主要地方道「仙台松島線(利府街道)」と一般県道「加瀬沼公園線」を結び、本町の道路網において非常に重要な役割を担うものです。令和2年から整備を進めてきた工事が完了し、待望の供用開始を迎えました。開通に先立ち執り行われた式典には、用地提供にご協力いただいた地権者や町関係者、施工業者らが参列し、新たな道路の誕生を祝いました。

本路線の開通により、町内における幹線道路ネットワークが強化され、渋滞の解消や利便性の向上が期待されます。特に主要渋滞箇所における交通量の分散が図られることで、周辺道路の混雑緩和とともに、目的地までの所要時間短縮に寄与するものです。

町長による式辞に続き、議会議長をはじめとする来賓の方々より祝辞を賜りました。その後、晴天の下で行われたテープカットにより開通が宣言されると、参列者からは大きな拍手が送られました。式典の締めくくりには、関係車両による「走り初め」を行い、交通の安全を祈念しました。



問 施設管理課 道路係 ☎767-2121



町長コラム ベア・パル

利府町賛歌を知っていますか

数年前からインドネシアなどの東南アジアを中心として日本のシティポップが大流行していると聞きます。「ダウンタウン線り出そう」と歌ったシュガーベイブやピンクシャドウ、山下達郎の「ライドオンタイム」、松原みき「ステイウィズミー」など、高層ビルが立ち並び、ナイトライフの充実、サーフィン等、余暇の過ごし方がスタイリッシュになってきた東京の一場面を高揚感あふれるメロディで歌い上げ、昭和世代の私たちにとっては、日本経済の盛衰を表現する際に、少々の懐かしさと悔悟を思い起こす響きがあります。背景の世界情勢として、ベトナム戦争の終結と喜びが新しい時代の到来、反戦フォークソングから、ニューミュージックへ、吉田拓郎から荒井由実へ、と表現したらわかりやすいかもしれません。東南アジア諸国は、女性の社会的な自我の芽生えや経済的な自立、乱立した高層ビル等、景気の良い「今」をシティポップとともに謳歌しているのだろうと想像します(次は尾崎豊がはやると思います)。

ながながと書いてしまいましたが、何が言いたかったかというと、「利府賛歌」の事です。私は秋田県とご縁があり、会合等に出席すると決まって最後に「秋田県民歌一大いなる秋田

一」の大合唱になります。翻って私たち宮城県はどうだろうか。宮城県民歌は存在するが知名度がない。ましてや利府町にも歌があります。それが「利府町賛歌 ふるさとは北のくに(さとう宗幸作)」で、大変落ち着いた味わい深い歌です。

わが町の歌の認知度を高めようとして、試行的に防災無線で「恋は水色」に代わって流してみました。間隔をあけて、二度ほど試みましたが、評判は芳しくありません。利府の歌は経済発展著しい東南アジアのようにアップテンポの曲調がいいのだろうかと考えたりもします。いずれにせよ、現在の勢いのある利府町にふさわしい歌とはどういった歌でしょうか。仙台市には同じさとう宗幸さんの代表曲でもある「青葉城恋歌」があります。町制施行60周年を前に利府町の豊かな自然の移ろいと人情を歌った新曲が必要なのかな…いやその前に歌を歌えるステージ、カラオケ店が先か。

利府町長 熊谷 大 ゆたか